

宇多津町議会議長 殿

教育委員会の事務の管理
及び 執行の状況の点検
及び 評価に関する報告書

(令和元年度対象)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定
に基づき報告書を提出いたします。

宇多津町教育委員会

はじめに

I 目的及び制度の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくことを目標に、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表すること、また、その点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることになっています。

II 点検・評価の対象

「平成 31 年度宇多津町教育方針」に基づき、各項目ごとに目指す姿として「施策の目標」との関連で、令和元年度（平成 31 年度）の進捗状況について、点検・評価の対象としました。

III 点検・評価の方法

令和元年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、「施策の目標」に掲げている項目の点検・評価表を掲載しています。また、点検・評価の客観性を確保するために、「宇多津町教育評価委員会」を開催し、（令和 2 年 12 月 22 日）地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 2 項に規定する学識経験を有する次の方々から、ご意見をいただきました。

氏 名	所 属 等
玉井 正明	香川短期大学名誉教授
会沢 勲	四国学院大学教授
佐藤 隆之	教職経験者 宇多津中学校 学校評議員

参考資料 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

目 次

1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進

(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進	
① 学習習慣の確立と学ぶ意欲の向上	1
② 英語教育・外国語活動の充実	2
③ 情報教育の推進	3
④ 特別支援教育の推進	
・ 特別支援教育	4
・ 教育相談	5
・ 私の成長シート	6
(2) 教職員の資質・能力の向上	
① 改訂学習指導要領の趣旨に沿った授業改善	
② 町連携協議会の充実	
③ ステージ別研修の充実	7
(3) 安心・安全な学校づくり	
① 実践的な防災教育の実施と防災力の向上	8
② 交通安全教育の充実	9
③ 不登校・いじめ等問題行動等の未然防止及び指導体制の充実	10
④ 学校情報・地域情報配信の充実	11
(4) 健康教育の推進	
① 安心・安全な学校給食の実施	12
② 家庭と連携した食育の推進並びに生活習慣病の予防促進	13
③ 基本的な生活習慣を身につけるための啓発活動の促進	14
(5) 教育施設的环境整備	
① 学校諸施設の整備・充実	15
② ICT化の推進	16

2. 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

(1) 地域の教育力を活用した学習等支援＝地域力	
① 学習等支援体制づくり	17
② 体験活動・交流活動の充実	18
③ 放課後児童の居場所の充実	
④ 子どもSOSの充実	19
(2) 他者への思いやりや自尊感情の育成	
① 地域活動への積極的な参加促進	20
② 異年齢交流活動事業の推進	21

(3)	家庭教育活動の推進並びに支援体制づくり	
①	家庭教育支援体制づくり並びに学習機会の拡充	
②	家庭教育力の向上	22
③	「家庭の日」の推進	23
(4)	人権尊重の知識を養う人権・同和教育の推進	
①	研修機会の充実	24
②	広報・啓発活動の充実	25
(5)	宇多津を誇りに思う心を育成する教育の推進	
①	地域の伝統文化を学習する機会の充実	
	・ 成人式	26
	・ 宇多津検定	27
(6)	いじめ等問題行動から子どもを守るネットワークの充実	
①	子どもを守るネットワークの整備	
	・ いじめ防止等対策委員会	28
	・ サポートチーム連携協議会	29
	・ 宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会	30
	・ 少年育成センター業務	31

3 活力ある地域コミュニティの育成

(1)	文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の推進	
①	研修活動等の充実並びに地域の伝統文化の保存・継承活動の支援	
	・ 令和相聞歌	32
	・ 文化財保護	33
(2)	地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実	
①	いつでも・どこでも学ぶことができる学習機会の提供	
	・ 女性セミナー	34
	・ 宇多津大学	35
②	住民が学んだ成果を住民のために活かす仕組みづくり「知の循環」	36
(3)	スポーツ・レクリエーション活動の充実	
①	指導者養成並びに活動支援体制づくり	
	・ 大松杯バレーボール大会	37
	・ 激励制度	38
②	スポーツ・レクリエーション活動を気軽に楽しむ場の充実	
	・ スポーツの推進	39
	・ 子どもロードレース	40

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	① 学習習慣の確立と学ぶ意欲の向上

令和元年度実施内容

小学校では新学習指導要領による本格的な取り組みが始まり、本町においても第三次宇多津町教育連携5か年計画の3年目を迎え、「対話を通して『誇り・敬い・創意』を育む教育」を念頭に、全国や県の学力・学習状況調査の結果を踏まえつつ、授業改善を目指しての研究実践に取り組んだ。

また、家庭や地域においても、学校・家庭・地域が一体となって子ども達を育てていこうとする意識が高まるよう、教育委員会や各校園所のさまざまな行事や会合、広報紙などを通じて啓発活動に取り組んだ。

1 本年度の重点課題

宇多津小 : 「素直さ、粘り強さ、ていねいさ」を合言葉に、学習規律を守る子、自分の考えをしっかりと持ち学びあう子、家庭学習に進んで取り組む子の育成を目指して教育活動に取り組んだ。

宇多津北小 : すべての子どもたちに学力をつけ、楽しい学校生活を送らせたいという願いから「『わかった!できた!』なかまとともに学ぶ喜びを感じる子どもの育成」を研究テーマに掲げ、実践に取り組んだ。

若年教員の授業力向上に向けて、県の学力向上マイスター事業を活用した。

宇多津中 : コの字型授業の実践により宇中型協同学習を推進する。学習課題の設定の工夫と振り返り活動の充実を中心課題として授業改善に取り組んだ。

宇多津幼稚園 : 幼児の発達の道筋を理解し、発達に沿った環境構成を考えて環境の再構成を図った。三間(時間・空間・仲間)を保障し、遊びこむ楽しさや遊びに向かう意欲を育んだ。

2 家庭・地域との連携の充実と情報発信

・学校と家庭の連携・協働(対話)

… 願いの共有、基本的生活習慣づくり、家庭の教育力向上、PTAや子育てサークルとの連携

・学校と地域の連携・協働(対話)

… 地域に開かれた学校づくり、地域から学ぶ活動の充実、地域の高等教育機関との連携
地域のボランティア活動や行事への参加、地域の見守り活動、あいさつ運動

目標達成に向けた今後の課題

香川県学習状況調査から読み取れる喫緊の課題は、子どもたちが「授業が楽しい」と感じ、いきいきと学習に取り組めるような授業を作り上げることである。各校にはそれぞれの教育課題に基づく研究課題はあるが、それらを町連携が目指す「対話を重視した、主体的・対話的で深い学び」の実現を共通目標として関連付けさせ、授業研究を重ねる中で課題の克服を目指したい。

保育所・幼稚園では、園児が生き生きと主体的に活動できるようになり、保育者自身にも全職員で子どもを観ていくという意識が高まってきた。一方で、子どもの育ちには家庭や地域の協力が不可欠である。園の取り組みを理解していただき、ともに子どもの成長を見守っていただけるような心に届く発信を工夫していきたい。

【学識経験者の意見】

- ・町全体で「授業づくり」の共通理解があり、授業改善に取り組んでいるのがよい。
- ・各校園にそれぞれ、学び合いにおける「形」から入る指導があると子どもたちには受け入れやすいのではないか。
- ・第三次宇多津町教育連携5か年計画の趣旨を生かした各校園の取り組みが窺える。前年度に比し、集団対話型から積極的授業参加、コミュニケーション重視に方向性を変えており、「分からせる」教育から「分かる」教育に大きく転換しており、成果が期待される。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	② 英語教育・外国語活動の充実

令和元年度実施内容

1. 町教育連携の取組として

- 平成30年度より3年間、中学校の英語科教員が小学校高学年の外国語活動の授業に入りサポートする取組が香川県で始まった。この制度と、本町が文部科学省から指定を受けている「外国語活動に関する特別の教育課程編成」を活用して小学校の全学年で外国語に関わる活動、学習に取り組むことができた。

2. 各学校の取組み

保幼小中の滑らかな接続を実現するための取組や中学校でのオールイングリッシュの授業実践も実施し、英語を使う楽しさを味わう子どもが育ってきている。

宇多津小… 中学校英語教員の派遣を受け、ALTや担任とも連携して高学年を中心に英語教育を充実させた。

宇多津北小… 現職教育の組織に「English班」を設け、発達段階に即して児童が英語を使う楽しさを味わえる外国語活動を展開するために、授業実践に加えてEnglish timeの計画・運営、English roomの環境整備に取り組んだ。

宇多津中… 国際社会に生きる日本人として、進んで人とコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、世界の人々と強調する精神を培うことをねらいとして、オールイングリッシュで英語科の授業を行い、コミュニケーション授業ではALTの積極的な支援を活用している。

宇多津幼… 絵カードを活用したゲームやグループで力を合わせて体を動かして楽しめるゲームをたくさん取り入れて「英語であそぼう」の活動を行ったことで、「英語が好き」という思いのまま小学校に送り出すことができた。

目標達成に向けた今後の課題

- 小学校では、英語が専門でない教員にとって「書くこと」の指導が不安の種になっている。中学校教員のフォローも得つつ、交流活動を充実させながら書く力（表現力）を高めていくための手立てを探っていきたい。
- 保育所・幼稚園、小学校と外国語活動を学んできた中学生の英語教育について、今後さらなる研究が必要である。
- 小学校までの外国語活動と中学校の英語を直結させるため、中学校の英語教員とのより効果的な連携のあり方を話し合う。

【学識経験者の意見】

- ・ 幼小中の全体で「英語・外国語活動」の授業改善に取り組んでいるのがよい。
- ・ 中学校の英語科教員が小学校6年生の外国語活動にコラボしているのは、円滑な接続のために効果的である。英語が小学校5年生6年生で正式教科になり、また、小学校免許に英語指導を含むようになってきている。免許を有する教員が配置されると「書くことの指導の不安」は、解消されるのではないかと。
- ・ 英語教育のモデル地区としての役割は終えたが、各校園とも充実した先駆的な取り組みがなされており、英語教育が軌道に乗っている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	③ 情報教育の推進

令和元年度実施内容

1. 令和元年度の取組み

- (1) パソコンやタブレットを活用して情報活用能力の推進を図った。
 - ・ 体育の授業におけるタブレット利用などICT機器の活用による授業の取組み
 - ・ 現職教育における「プログラミング教育」に関する研修
 - ・ 町連携ステージ研修の若年部会においてタブレットパソコン研修を実施した。
 - ・ ベテラン部会では、パソコンのスキルアップ研修を実施した。
- (2) 情報モラルの教育としてスマホ等の使用についての以下の事業を実施した。
 - ・ メディア依存に関する学級PTA等の機会を通じた保護者への啓発
 - ・ 北小学校の学校保健委員会において、専門医師を招いて「ゲーム依存について」の講演会を開催した。
- (3) 町教育連携における専門部会としてPC部会を設置した。
 - ・ 学習用端末の機種選定や教育支援ソフトの研究
 - ・ プログラミング的思考についての研究
 - ・ 小学校の校務用及び児童用のパソコンのリース期間満了に伴う機器の更新

2. 次年度以降の取組み

- ・ 町連携において学習用端末の活用に関する研修の実施
- ・ SNSなどのネット依存に関する対策や学校における携帯電話の持ち込みに関する方針の策定

目標達成に向けた今後の課題

1. 情報活用能力の向上

パソコンや大型テレビ等を利用した調べや学習の可視化による授業で対話が生まれるような工夫

2. 情報モラル教育の充実

保護者を対象にゲーム依存に対する医療的見地からの講演会の開催

いじめやネットトラブルに巻き込まれないよう教育の充実が求められる。

3. 令和2年度から実施される小学校の新学習指導要領からプログラミング学習が導入されること

になっており、プログラミング的思考を育成する学習指導について研修を進めていかなければならない。

【学識経験者の意見】

- ・ 本事業とコロナ禍のオンライン教育の環境整備は関連があるのか？ また、コロナ禍のオンライン教育の環境整備の状況は進んでいるのか？
- ・ 情報教育の本格的な推進に向けての研修や授業の試行が適切に行われている。PC部会の設置は大きな意義がある。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	④ 特別支援教育の推進 ～特別支援教育～

令和元年度実施内容

宇多津町では、特別な教育的支援が必要な子どもが年々増加傾向にあり、各学校（園・所）では子ども1人1人にあった適切な指導を行うように努めているが、専門的な知識を持っている指導者が少なく、対応に苦慮しているのが現状である。そのような中、保育所から中学校までが連携して情報交換を密に行い、滑らかな移行を図りたい。また、特別支援教育に携わるものが、スキルアップを目標に、県の研修会に参加したり、町の部会で研修を積み重ねることにより、町特別支援教育の指導の充実を目指したい。

【各学校の状況】

	H29			H30			R元		
	知的	自閉症	肢体	知的	自閉症	肢体	知的	自閉症	肢体
宇多津小学校	①2	②11	0	①3	②9	0	①5	②9	①1
特別支援学級クラス数・児童数	3クラス・13人			3クラス・12人			4クラス・15人		
通級学級児童数	24			24			18		
宇多津北小学校	②10	①6	①1	②9	①6	①1	②11	①6	①1
特別支援学級クラス数・児童数	4クラス・17人			4クラス・16人			4クラス・18人		
通級指導教室（巡回指導）児童数	7			5			6		
宇多津中学校	①2	①4	①1	0	①5	①1	0	①4	0
特別支援学級クラス数・生徒数	3クラス・7人			2クラス・6人			1クラス・4人		
通級指導教室（巡回指導）生徒数	1			3			2		

【県・町研修】

- （県）特別支援教育コーディネーター研修会
- （町）教育支援委員会 年1回（12月5日）
- （町）臨時教育支援委員会 判定の必要があればその都度（1回）
- （町）特別支援教育部会（年2回）
- （町）特別支援教育コーディネーターの町内幼稚園・保育所巡回指導
※特別支援教育コーディネーター（各校2名ずつ、計6名）

【成果】

- ・各学校（園・所）では個に応じた支援が行われており、全職員が情報を共有し、学校全体で取り組むことができた。町で連携し、情報交換を密に行い、滑らかに移行できた。
- ・生活支援員の大半が5年以上勤務し、気になる子どもに寄り添った支援ができた。

目標達成に向けた今後の課題

- ・幼稚園、保育所で特別支援教育に携わっている先生方を対象に、特別支援教育の専門アドバイザーを講師に迎え、研修会を計画。地域の小学校へ滑らかにつなぐための支援や適正就学等について学び、個々にスキルアップすることにより、町の特別支援教育の充実を図りたい。

【学識経験者の意見】

- ・町で連携して情報交換を密に行い、滑らかに移行できたことは、成果である。
- ・特別支援教育で全職員が情報を共有し、学校全体で取り組んでいることを高く評価したい。担当者が孤立無援にならないように配慮は必要。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	④ 特別支援教育の推進 ～ 教育相談 ～

令和元年度実施内容

1. 目的

特別支援学級（学校）に通う児童・生徒及び保護者、発達障害やその疑いのある児童・生徒及び保護者、発達が気がかりな幼児等の保護者を対象に、園（所）・学校・家庭が連携し、幼児・児童・生徒の心身の発達に寄与することがねらい。

2. 年間回数

- (1) 月1回を原則に、年間13回（4月開始、8月のみ2回）実施。4人程度/回。
- (2) 8月に実施する2回は、就学相談として、就学前年長児及び保護者を対象に教育相談を実施した。また、この教育相談以外にも、保健センターの相談員に依頼して、希望者全員に相談活動を実施している。

3. 実施体制

- (1) 月1回、午後1時～午後5時までを原則に、各4人ずつの予約制。
- (2) 8名が継続で年間予約し、学期に1度の割合で相談を行った。
- (3) 毎回、原則第1番目の枠13:00～14:00を「新規枠」として確保し、対応している。

4. 相談員委嘱者 松本 矩子 先生

- (1) 所属 発達相談室「まつもと」
- (2) 資格 言語聴覚士、特別支援学校教員免許

5. 他機関との連携

- (1) 所属の園（所）・学校
- (2) 医師、施設等の専門機関

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 新規の相談者募集は年度初めに行い、1学期の下旬に再度追加募集を行った。今後は各小学校との連携の方法も見直し、年度途中での受け入れに速やかに対応できるようにしたい。また、現在は学期に1回（年3回）の相談を基準としているが、今後は全体の希望者数も見ながら年間の相談回数を1回でも増やせるように検討していきたい。
- ・ 就学前の相談は希望者が増加しているので、可能な限り対応できるよう、実施回数の追加を検討していきたい。
- ・ 8月に実施している「就学時相談」で申込んできた幼児の保護者への働きかけを行い、継続的な支援へとつなげることができればと考えている。

【学識経験者の意見】

- ・ 希望者全員に相談活動を実施していることは、成果である。
- ・ 新規者用の枠の設定や1学期末の追加募集は適切である。
- ・ 相談の機会を窺い、悶々と過ごす保護者も見られる。2学期以降の追加募集の是非を検討してはどうか。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	④ 特別支援教育の推進 ～ 私の成長シート ～

令和元年度実施内容

1. 「わたしの成長シート」
 - ・ 公立の保・幼・小と町教委が連携をとり、5月に元年度計画について事前打ち合わせを行った。
 - ・ また、6月29日に公立私立の保・幼の年長の担任と小・中の特別支援教育コーディネーター、町教委が集まり、昨年度の取組み状況と、令和元年度の計画及び教育支援委員会の資料作成等について検討した。
 - ・ 昨年度同様、次年度入学児童にかかる就学指導として、5月下旬、保護者あてに「わたしの成長シート」を配布した。
2. 「わたしの教育シート」に基づいた教育相談の実施
 - ・ 「わたしの成長シート」には教育相談の希望の有無を記載する箇所を設けている。令和元年度は、31人の保護者より相談希望があり、希望者の内28名について7月～9月に教育相談を実施した。
 - ・ 相談の結果は、所属園・所および町特別支援教育コーディネーターに伝え、今後の巡回指導や資料作成の参考にいただいた。
 - ・ 教育相談の結果等を参考に各園・所が教育支援委員会の資料を作成し、委員会で説明を行った。教育支援委員会では、資料をもとに個々の子どもにとって最も適切な指導及び必要な支援が受けられるよう判定された。（特別支援学校0人、特別支援学級4人、通級による指導2人）

目標達成に向けた今後の課題

1. 「わたしの成長シート」アンケートにより、教育相談を希望する保護者が、相談を受けやすいような体制(会場、相談員の選定)が必要である。
2. 1で教育相談を受けた保護者が、子育てや就学等についての悩みが少しでも解消できるように、学校のコーディネーターや保健師等に繋いでいく必要がある。
3. 「わたしの成長シート」を十分確認し、相談希望がない保護者についても、問題があると判断された子どもについては、町特別支援教育コーディネーターに相談し、幼稚園・保育所より、保護者に教育相談を勧める必要がある。

【学識経験者の意見】

「わたしの成長シート」を生かした相談体制が整理され、積極的に相談活動が行われている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(2) 教職員の資質・能力の向上
事業内容	①改訂学習指導要領の趣旨に沿った授業改善 ②町教育連携協議会の充実 ③ステージ研修の充実

令和元年度実施内容

- 1 改訂学習指導要領の趣旨に沿った授業改善
 新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、町連携全体においては「子供が喜びを感じ、生き生きと活動する学びの実現」を重点課題として掲げ、子どもの実態に応じて現職教育主任を中心にそれぞれの学校が授業改善に向けて取り組んだ。
- 2 町教育連携協議会の充実 … 年2回実施。
 - (1) 第1回 6月24日(月) 宇多津中学校 13:30~16:30
 - ・授業参観 全学級での公開授業、イングリッシュタイム参観
 - ・全体会 講話 宇多津町教育委員 前田 寛文 氏
 - ・ステージ研修 … (後述)
 - (2) 第2回 9月18日(水) 宇多津北小学校・町立中央保育所 13:30~16:30
 - ・授業参観 宇多津北小 全学級での公開授業
 - 及び授業討議 中央保 3・4・5歳児の異年齢交流
 - ・ステージ研修 … (後述)
 - (3) 情報交換部会 保幼小中の関係教職員が集まり、年間計画に従い2~4回実施。
 - ① 小1連絡会 ② 中1連絡会 ③ 健康教育部会 ④ 特別支援教育部会
 - ⑤ 不登校部会 ⑥ 読書指導部会 ⑦ 英語教育部会 ⑧ PC活用部会
 - (4) 夏季研修 8月5日(月) 宇多津町保健センター4階大研修室 8:40~12:10
 - ① 人権・同和教育講演会
 演題：「みんなですすめる人権・同和教育」
 講師：県教委人権・同和教育課副主幹 安河内 正広 氏
 - ② 地域保健委員会講話
 演題：「加害のある子どもたちへの接し方」
 講師：四国少年院 法務教官 長尾 貴志 氏
- 3 ステージ研修の充実
 教職員特例法の一部改正を受け、町連携でも年代別の研修を取り入れ、経験年数に応じた共通の課題を持つ教職員どうして研修を深めることで、実践的指導力の向上を図る。
 - ・若年研修部会 … 「発達段階に応じたゲーム・ネット依存の指導」「構成的グループエンカウンター」「PC研修(Excelの活用方法)」「前田教育委員との交流(講話・Q&A)」等
 - ・ミドル研修部会 … 「支援を必要とする家庭との対応について」「キャリアパスポート」等
 - ・ベテラン研修部会 … 「校内での諸課題の事例研修」「若年教員との関わり」「プロダクティング学習」等

目標達成に向けた今後の課題

香川県学習状況調査における質問紙調査の結果、「授業が楽しい」と答えた子どもの割合が小・中ともに10pt以上低く、併せて「授業の内容がどの程度分かるか」「間違えたところを後で復習しているか」という問いに対しても5pt以上下回っていた。対話を重視し、子どもが主体となっていきいきと活動する学習への転換が緊急の課題といえ、各校の取組みも生かしつつ町全体で一つの方向性(軸)をもって取り組んでいきたい。

【学識経験者の意見】

- ・ 小1連絡会、中1連絡会、不登校部会は前任者との間の「相互信頼」に基づき、「何を」共通理解し、「何を」共通行動し、継続して「だれと」連携していけばよいかを知る、重要な部会である。
- ・ 町内各校園の一体化、一貫性を図り共通理解と課題解決によって教育効果を高める画期的な取り組みである。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	① 実践的な防災教育の実施と防災力の向上

令和元年度実施内容

1. 防災研修活動

(1) 教職員研修

シェイクアウト（県民一斉地震防災行動訓練）や避難訓練を実施する前に共通理解を図り、事前指導について協議している。また、職員会等では危機管理マニュアルや校内の避難ルートの見直しなども行われ、いつでも対応できる心構えと危機管理に努めている。

(2) 教職員の共通理解のために

日赤や坂出消防署から講師を招いての心肺蘇生法、AED、エピペンの使用についての実技研修のほか、町危機管理課を招いて講話を聴き、防災に関する意識を高めた。

2. 防災教育 … 幼・小・中ともに11月の香川県シェイクアウトに参加。

幼稚園： 町危機管理課より講師を招き、保護者にも呼びかけて心肺蘇生法や防災頭巾づくりの研修を実施し、啓発活動に取り組んだ。また6月には地震、2月には火災を想定した避難訓練を実施した。さらに11月にはシェイクアウト訓練にも参加した。

宇小： 県下一斉のシェイクアウト訓練に参加し、訓練後はビデオの視聴やワークシートの活用等を通じてプラスワンの指導を各学年ごとに行った。また、火災、地震、引き渡し等さまざまな状況を想定して訓練を行った。

宇北小： 不審者、津波、地震、火災の事象を想定した避難訓練を実施した。また、学習参観日には緊急時の引渡し訓練も合わせて行うほか、授業においても、機会をとらえて意識を高める指導を行っている。

宇中： 10月には町危機管理課から講師を招き、防災についての講話を聴いた。また、8月に避難訓練を行い、さらに11月には香川県シェイクアウト訓練に参加し、地震の際の対応について再確認した。

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 防災上まず大切なのは、自分で考えて主体的に動けるような自助の力を身につけていくことであり、それがさらに共助の力へと広がっていく。防災のみならず日常のさまざまな場面でそういった意図的な取り組みを積み重ねていくことが大切である。
- ・ 訓練の意義がきちんと理解されていなければ十分な効果は得られない。事前の指導を充実させることで訓練に臨む意識を高めていく。
- ・ 各校園においては多様な場を設定した訓練がそれぞれに計画されているが、AEDを用いた心肺蘇生、エピペンの使い方等重要な内容についてはすべての校園で研修できるよう調整を進めたい。また、熱中症の応急処置については必須の課題として取り組んでおく必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・ 校外活動では、事故対応を想定して事前に必ず現地へ足を運ぶことが重要である。
- ・ 災害が起きないことを祈るが、このような準備は役立つと思う。
- ・ 各校園の避難訓練、避難ルートの見直し、各種の実技研修が適切に行われている。特に、宇多津小の緊急引き渡し場所の設定は画期的である。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	② 交通安全教育の充実

令和元年度実施内容

(学校の取り組み)

	目 標	登下校指導	交通安全教室
小宇多校津	「自分の命は自分で守る」という安全意識と実践的な態度を育む交通安全指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の立哨指導 担当する地区の危険箇所点検、現地指導 リーダー指導、班長会で指導 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室（6月、1・2年生） 自転車点検教室（8月、3年生）
小宇多校津北	児童の安全に対する意識を高め、交通ルールを守って、安全に生活ができる児童を育てる。また、SOSマップ等を活用し、校内外の様々な場面で進んで自分の命を守ることができる児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の立哨指導 担当する地区の危険箇所点検、現地指導 安全マップの作成 下校時の交通指導（1年生） 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室 自転車実技指導（1学期、4年生）
中宇多校津	命の大切さを認識し、交通ルールを守り、安全に通学する態度を身に付けさせる。また、交通マナーを理解し、地域の人に迷惑をかけないように、社会の一員としての態度やモラルを育む。	<ul style="list-style-type: none"> 通学路の安全確認 交通法規の意義と安全についての講話 交通事故の加害と被害についての講話 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室（1年生） 自転車点検
幼宇稚多園津	身に迫る危険を自分の目で確かめたり、耳で聞いて感じたりする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 親子で手をつないで歩き、安全意識を高める。 保護者への啓発 園外保育の指導 	<ul style="list-style-type: none"> こじかクラブ入会式（4月PTA総会） 交通安全紙芝居、DVDを見る（長期休業日前） 就学前交通安全教室（2月末）

(組 織 活 動)

PTA・・・立哨指導、地域安全パトロール、学校支援ボランティア、少年育成センターによる巡回交通指導員・・・登校指導
 青パト・・・朝、夕の町内巡回
 町交通安全プログラムによる合同点検 ……年に1～2回関係者が集まり、学校提出の危険箇所等の情報をもとに合同点検を実施し、実際に危険性等を確認した。

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 合同点検の結果をもとに関係課と危険箇所等の対応を協議する。警察署のアドバイスをいただく。
- ・ 先生方が、実際に危険箇所等を自分の目で確認する。
- (幼) 遠足や散歩等、日頃の生活・活動の中で自ら危険性や対処法を学ぶ。
- (小) 自分自身の安全を守りながら事件事故を予測し、安全に登下校ができるようにする。
- (中) 自転車の事故が数件発生している。注意してもなかなか改善しないが、身近な事故を例にとり、大きな事故が起こらないように、集会等で繰り返し指導を行う。

【学識経験者の意見】

- ・ 校区内の交通状況を把握しておく。町内の登下校の通学路は「大東川」と旧11号線で4区分できる。児童生徒は橋で大東川を渡る。旧11号線は、おか泉前、役場横の信号のある横断歩道へ児童生徒は集まる。接触事故多発地点を現場で理解しておく。事故の連絡を受けたら、現場へ行くことができる教師であってほしい。
- ・ 登下校時の立哨、交通安全教室の実施など、安全指導、安全対策が適切に行われている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	③不登校・いじめ等問題行動等の未然防止及び指導体制の充実

令和元年度実施内容

1. 文部科学省による調査から

(1)	暴力	対教師	破損	いじめ	解消	不登校	解消	指導中	自殺	調査結果数は 左記のとおり
小	0	0	0	1	0	7	0	7	0	
北	2	0	0	5	3	1	1	0	0	
中	11	1	0	23	21	29	10	19	0	

(2) 結果からの考察

前年度と比較して、ほぼ横ばいの状態といえるが、不登校については新型コロナウイルス感染症対策としての臨時休校があったため、未知数の部分もある。全般的に校内の空気そのものは落ちついてはいるが、依然不登校児童生徒の多い状況は変わらず、継続的な取組が必要とされる。

2. 生徒指導に対する施策

(1) 校内の組織的努力

- ① 教職員が一体となって、未然防止と早期発見・早期対応にあたるなどの取組や、家庭・地域社会等の理解を得て、地域ぐるみでの取組を推進している。
- ② 「チーム学校」の構築… 県費教職員だけでなく、学校には町講師・支援員等のほかに S C、S S W、S S T などが配置されており、こうした専門家が役割を発揮して対応している。

(2) 外部専門家を活用した連携による対策

- ① 町においては包括支援センターや少年育成センターとの連携を図って見守りや相談等の活動に継続的に取り組んでいる。
- ② 地域ぐるみの連携として「いじめ防止等対策委員会」や「サポートチーム連携協議会」、民生児童委員や少年育成センターの協力も得ている。
- ③ 事案によっては、児童相談所や中讃保健事務所、家庭支援センター等による家庭全体への支援が必要な場合もあり、総合的見地からの取組を推進している。

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 現在の最も大きな課題は不登校児童生徒をいかに減らすかにある。そこで、S S Wを増員して相談体制を充実させること、学校内外での学力保障を進めることの2点を重点目標として取り組みたい。
- ・ いじめに関する事案の中に、SNS上の書き込みによるものが増えてきており、学校において1人1台のパソコン導入が始まる今、ネットやスマホに関する指導も欠かせないものとなる。
- ・ 保護者からのDVによる一時保護事案や、育児放棄ともいえる状況の報告が増えており、関係機関との連携を進めておく必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・ 未然防止のためには、「配慮や理解が必要な児童生徒」を情報共有し、見通せる教室配置や校内巡視を行う。
- ・ 教師間の「報告・連絡・相談」。教師一人で抱え込まない。学校だけで抱え込まない。
- ・ 「事実」と「揣摩臆測」を峻別した記録に。
- ・ 暴力、いじめ、不登校など減少傾向がみられ、町ぐるみの取組みや専門家、専門機関との連携が功を奏している。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	④ 学校情報・地域情報配信の充実

令和元年度実施内容

1. メール配信の登録 令和元年度メール登録件数 2,163件
 - ・町立の幼稚園、小・中学校の保護者及び学校関係者に、毎年4月又は随時にメール配信（変更）登録を呼びかけ、手続きを行った。
2. 不審者情報の配信
 - ・県警本部からの「子ども安全情報」の提供があれば、教育委員会から不審者情報の配信を実施。
 - ・香川県警察ヨイテスマートメールに登録し、より速やかな情報の収集に役立てている。
 - ・宇多津町福祉施策の一環として、認知症などで高齢者の行方不明者が発生した場合の一斉配信にも活用している。
3. 学校からのメール配信
 - ・そのほか災害情報（気象警報等）による登下校時間の変更、臨時休校及び学校行事等の情報について、教育委員会及び各幼稚園、学校からメール配信を実施。
 - ・令和元年度メール配信件数

学校教育課	38件	宇多津小学校	65件
宇多津幼稚園	4件	宇多津北小学校	76件
少年育成センター	48件	宇多津中学校	19件
		計	250件

目標達成に向けた今後の課題

1. 毎年更新時期に学校に出向き、情報配信登録の手続きの補助や質問を受け付けているが、年度更新については、教育委員会管理側で実施できるよう検討したい。
2. 令和元年度12月以降のコロナウイルス感染症の発生時、メール配信での周知を行う際、各施設との協議を慎重に行い、共通した情報内容を各関係保護者に送信出来たが、今後の課題として、各施設が共通した情報を配信する場合は、保護者に分かりやすく簡潔に早く伝えられるよう、各施設との連携を工夫する必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・不審者情報、災害情報の積極的な収集・配信がなされており、安全な環境維持に鋭意努力している。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(4) 健康教育の推進
事業内容	①安全・安心な学校給食の実施

令和元年度実施内容

○食物アレルギー対応

1. 新入生の対応
就学時健康診断にて、保護者宛に調査票を配布し、アレルギー有無を把握し、給食対応の希望をとる。希望者には関係者による個人面談を行い、医師の診断書を提出してもらう。
2. 個人面談の決定事項から
 - ①除去食（完全除去）
 - ②代替食によって献立を作成する。
3. アレルギー対応食指示書（栄養教諭作成）により、栄養教諭、調理委託業者で打合せを行い、対応食について確認を行う。
4. 委託業者への確認作業
必要な食材を購入し、誤配食、誤配送の無い様に確認作業を行う。
5. 保護者への対応
予定献立表を配布し、最終確認を行う。
6. 対象者数（令和2年3月31日現在）

中央保育所	4名	宇多津幼稚園	3名	宇多津小学校	11名
宇多津北小学校	17名	宇多津中学校	10名	計	45名

○マニュアルの追加

学校における管理について特記した「学校における食物アレルギー管理対応マニュアル」を作成した。

○異物混入時の対応経路（略式）

- ①異物発見 ②当該クラスの給食中断（担任） ③担任→教頭→校長に連絡 ④教頭→教育委員会に連絡
⑤教育委員会→宇多津給食サービス、宇多津町給食センターに連絡 ⑥当該献立の中止連絡
⑦給食サービスによる異物混入経路の調査、代替食の手配等 ⑧健康被害調査及び保護者に対策等の説明

目標達成に向けた今後の課題

- ・ アナフィラキシーショック発生時に対応するため、香川県小児科医会が作成した「アレルギー対応緊急マニュアル」に基づき、エピペンを使った研修を継続して行う。
- ・ 対象児童について、校内で情報を共有し、共通理解を図る。他の児童についても、アレルギーに対して理解を深めるように努める。
- ・ マニュアルの運用に当たり、全ての児童・生徒に安全な給食を提供するため、適切に改訂を行う。

【学識経験者の意見】

- ・ 異物混入時の対応経路ができており、明記されている。
- ・ 学校給食の安全対策が徹底している。特にアレルギーの事前調査、個人面談、事前打ち合わせ、確認作業、異常時の対応マニュアルの設定など、十分な対策がとられている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(4) 健康教育の推進
事業内容	② 家庭と連携した食育の推進並びに生活習慣病の予防促進

令和元年度実施内容

1. 対象者
 - 小学校・・・4年生（168名） 6月実施
 - 中学校・・・1年生（165名） 6月実施
2. 検査項目と結果
 - 肝機能検査：GOT（AST）・GTP（ALT）・γ-GTP
 - 脂質検査：総コレステロール・HDL-コレステロール・LDL-コレステロール・中性脂肪
 - 糖尿病検査：HbA1c（NGSP）
 - 貧血検査：赤血球数・血色素量・ヘマトクリット
 - ☆一次検査受診者：小学校161名・中学校142名
 - 観察者（要精検査者）：小学校 28名〔17.4%〕（9名）・中学校 29名〔20.4%〕（6名）
 - ☆二次検査受診者：小学校11名・中学校0名
 - 観察者（要精検査者）：小学校 6名〔3.7%〕（1名）・中学校 0名
3. 個別指導の必要な児童について
 - ・ 懇談時に保護者と生活習慣の改善について話し合った。
 - ・ 冬休みに開催した元気っ子クラブは、香川ヤクルト販売株式会社の管理栄養士の協力により11名が参加し、笑いを交えた管理栄養士の講話を保護者と児童一緒に聞いた。
 - ・ 親子で調理実習【ダイシチ麦ごはんでおにぎらず・はまちの照り焼き・豆苗のレンジ蒸し・あったか豆乳みそスープ・フルーツ牛乳かん】を小学校栄養教諭の献立で調理した。

目標達成に向けた今後の課題

1. 毎年度の課題である参加率の減少と開催時期について、今回は個別指導の対象になった児童・生徒を重点的に案内し、中学生も参加しやすいように冬休みに実施をすることになったが、中学生に関しては参加は無かった。今後も中学生が参加できるよう検討したい。
2. 今回香川ヤクルト販売株式会社の出前講話を依頼し、好評であった。今後香川県や企業などの出前講話も取り入れて、小児生活習慣病予防対策を幅広く周知したい。
3. 小児生活習慣病予防対策をより円滑に運営するために、「宇多津町小児生活習慣病予防対策委員会」を設置するための事前検討会を実施した。今後の課題として、要精査のフォロー体制等を学校保健と地域保健、医療機関の委員と意見交換を実施したい。

【学識経験者の意見】

- ・ 二次検査の実施と検査後の事後指導がセットになって適切に行われている。
- ・ アレルギー対応策の基本動作が設定され、徹底した安全対策がとられている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(4) 健康教育の推進
事業内容	③ 基本的な生活習慣を身につけるための啓発活動の促進

令和元年度実施内容

(1) 早朝ラジオ体操

- ・目的 : ラジオ体操参加により、規則正しい生活を送る。
地域の方や近隣の子どもたちと交流の場を設ける。
- ・日時 : 夏休み期間中(7/22~8/31) 午前6時30分~ラジオに合わせて約10分間
- ・場所 : 町内29会場 参加者: 1,290人(昨対比▲57人)
- ・周知方法 : 各幼稚園保育園、小学校、中学校へ出席カードと日程表を配布した。
他町広報誌、自治会回覧にて周知した。

目標達成に向けた今後の課題

- ・ラジオ体操の参加者については、減少傾向にある。啓発活動を積極的に行い、ラジオ体操を通して、基本的な生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する。
- ・子ども会や自治会の衰退などでお世話を下さる住民の方がいなくなったり、負担が大きい地区がある。
- ・家庭教育啓発月間では、「早寝・早起き・朝ごはん」や「あいさつ」をはじめとした、望ましい生活習慣づくりに地域一体となって取り組む必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・ラジオ体操は、短時間であっても行事に参加する勇気が育ち、規律正しい生活習慣の維持、異年齢交流による社会性を身につける機会ととらえ、理解を求めること。学期末の保護者懇談会等で参加について協力を求める必要がある。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(5) 教育施設の環境整備
	① 学校諸施設の整備・充実

令和元年度実施内容

校舎等工事及び環境整備

	工事名・概要	工事費 (円)
(宇多津幼稚園)	工事なし	
(宇多津小学校)	・ 外壁改修工事	87,536,900
	・ トイレ施設整備工事	29,645,000
	・ 普通教室等テレビ改修工事	3,672,000
	・ 屋内消火配管更新工事	14,889,960
	・ 特別支援学級(弱視)教室空調設備整備工事	968,000
	・ 校舎西植栽工事	1,220,000
	・ プール北面ブロック応急補強工事	1,094,500
(宇多津北小学校)	・ 普通教室等テレビ改修工事	4,644,000
	・ ジャングルジム設置工事	1,015,200
	・ 保健室エアコン設備設置工場	756,000
	・ 体育館ステージバトン手動ハンドル取付工事	1,265,000
(宇多津中学校)	・ 空調設備設置工事(1階会議室)	1,836,000
	・ デジタル自主放送整備工事	756,000
	・ 体育館バスケットゴール設置工事	1,242,000
	・ 空調設備移設工事(保健室)	518,400
	・ 体育館事務室空調設備設置工事	572,000

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 令和2年度までに町内学校施設の個別整備計画を作成し、今後の施設整備については、計画を基に無駄な工事・修繕にならないように実施する。
- ・ 今後改修等が考えられる箇所
 宇多津幼稚園 : プール底のタイル改修、カーテンレール劣化箇所の改修
 宇多津小学校 : ネットワーク配線工事、バックネット改修工事、庇改修工事、体育館空調設備設置工事
 宇多津北小学校 : ネットワーク配線工事、体育館ステージスクリーン工事、体育館空調設備設置工事
 宇多津中学校 : 屋上雨漏り改修、体育館空調設備設置工事

【学識経験者の意見】

- ・ 宇多津町は諸設備の整備・充実のために積極的に予算化してくれる。
- ・ コスト意識をたいせつにして、備品台帳や廃棄台帳を意識していきたい。
- ・ こうした町としての取組みを「広報」だけでなく発信してください。
- ・ 毎年度の計画によって着実に整備・更新がなされている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(5) 教育施設の環境整備
事業内容	② ICT化の推進

令和元年度実施内容

1. 令和元年度の取組み

- ・小学校の全ての教室に大型テレビ(4K60型)設置が完了。宇小19台、北小21台
- ・小学校大型テレビの整備に合わせ書画カメラも同数を整備

2. 次年度以降の取組み

- ・GIGAスクール構想に基づく小学校及び中学校へ1人1台端末の整備
- ・小学校及び中学校の大容量通信のための情報環境の整備(LANの更新)
- ・小学校パソコンリースの更新(校務用)、統合型校務支援システム導入の研究
- ・小学校及び中学校へ人型ロボットPepperを配置

3. 各施設ごとの現状

ハード	デスクトップ	ノート	タブレット	印刷機	大判プリンター	画像カメラ	プロジェクター
小学校	4	38	62	4	1	20	2
北小学校	44	47	28	4	1	23	2
中学校	41	43	30	5(内3台更新)	1	0	0

ソフト	タブレット用	共同学習	ワープロ	ホームページ	授業支援	グループウェア	その他
小学校	ジャストスマイル	ベネッセ	ジャストシステム	ふれあい通信	スライドパック	—	
北小学校	ジャストスマイル	ベネッセ	ジャストシステム	—	ネットウイッチ	—	
中学校	ジャストジャンプ	—	一太郎プロ	ふれあい通信	スカイメニュー	ミライム	フィルタリング

目標達成に向けた今後の課題

1. パソコンを授業にどのように活かすか、パソコンを使った授業をどの程度の割合で導入していくかのタイムスケジュール的な方針が必要である。
2. GIGAスクール構想の急速な進展により教員のパソコンスキルの向上が求められるが、操作の指導や助言などの支援体制を早急に整える必要がある。
3. 令和2年度は小学校の校務用パソコン更新があり、さらに翌年の令和3年度には中学校の校務用パソコン更新が予定されている。今後、整備が求められている校務支援システムの導入についても、併せて検討していく必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・他の市町はまだうまくいっていない印象なので、宇多津町にはこの事業のリーダーシップをお願いしたい。
- ・教育機器の整備・更新が着実になされている。特にICT化に向けての社会の変化に十分に対応した整備がなされている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(1) 地域の教育力を活用した学習等支援＝地域力
事業内容	① 学習等支援体制づくり

令和元年度実施内容

<地域学校協働活動推進事業>

1. 事業の目的

地域と学校が連携・協働し、未来を担う子どもたちの成長を支えるため、社会総がかりで教育を行うことを目的とする。

2. 事業の趣旨

教育支援、環境整備支援をなどの学校が必要とする支援活動を行い、教員の子どもと向き合う時間の拡充や地域の教育力の活性化を図るものである。

3. 昨年度からの改善点

地域コーディネーターを1名増員し、2名体制で業務にあたることとした。
活動内容、人員募集のため、パンフレットを作製し、町広報にて全戸配布した。

4. 本年度の具体的取組み

- ①宇多津幼稚園 学習支援（野菜作り、田植え体験、太鼓台組み立て補助）
その他（本の読み聞かせ、手芸指導、行事時の託児補助）
- ②宇多津小学校 授業支援（野菜作り体験、家庭科・図工補助、総合的学習支援）
環境整備支援（校内清掃、草抜き、花植え）
登下校支援（挨拶運動、交通指導）
その他（本の読み聞かせ、折り紙教室講師）
- ③宇多津北小学校 学習支援（野菜作り体験、外国人児童支援、家庭科支援、
競書会指導支援、うどん作り支援）
環境整備支援（トイレ清掃指導）
登下校支援（あいさつ運動、交通立哨）
- ④宇多津中学校 授業支援（技術・家庭科）
登下校支援（あいさつ運動、交通指導）
その他（部活動外部コーチ（柔道部、茶華道部））

目標達成に向けた今後の課題

- ・発足年度における問題点を解消しつつ、活動を活発に行っている。
- ・学校が求めていること、地域が協力したいことの把握に努める。
- ・広報活動を継続することで地域への呼びかけを行い、活動の継続させるための人員確保に努めるものとする。

【学識経験者の意見】

- ・コーディネーターの増員によって、多岐にわたる体験の設定がスムーズにできるようになった。体験は、児童・生徒を大きく成長させる。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(1) 地域の教育力を活用した学習等支援＝地域力
事業内容	② 体験活動・交流活動の充実

令和元年度実施内容

《うたづ寺子屋》

1. 実施日時及び会場

令和元年8月27日（火）	南隆寺
令和元年8月28日（水）	西光寺
令和元年8月29日（木）	宇夫階神社
令和元年8月30日（金）	宇夫階神社

2. 実施事業

- | | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・坐禅・写仏体験教室 ・鎮守の森を守ろうポスター作成 ・英語寺子屋 ・食にまつわるお話 | <ul style="list-style-type: none"> ・住職さんからのお話 ・学校給食センターのお話 ・鹿島踊り体験 ・写真から昔の宇多津を学ぼう | <ul style="list-style-type: none"> ・四国水族館の楽しみ方 |
|--|---|---|

3. 参加人数

- ① 申込者数 宇小11名（15名） 北小28名（40名） 計39名（55名）
- ② 延べ参加者数 宇小35名（43名） 北小63名（117名） 計98名（160名）
- （カッコ内は前年度実績値）

《うたづ寺子屋土曜塾》

1. 開催日

令和2年2月15日（土）

2. 実施事業

野鳥観察教室

3. 参加人数

児童7名（保護者等を含めて14名）

目標達成に向けた今後の課題

1. 会場について

町内寺社に会場協力について問合せを実施。宇夫階神社、南隆寺、西光寺、本妙寺、聖通寺の5寺社が対応可能との返事をいただく。次年度以降も予定を確認し、会場を決定する方針。

2. 実施事業について

学校・地域の方々による協力の下で、様々な内容を学ぶことができる場となっている。定例となっている内容のほか、参加者からの声を反映して事業を計画する。本年度は「理科の実験教室」や「うどん作り」といった回答が得られた。

3. 実施時期・人数について

平成30年度より、「教育週間・今日行く習慣」中の開催のみとした。

申込者、延べ参加人数ともに減少しているが、参加者に行ったアンケート（有効回答91通）では90通が楽しさについて肯定的である。

4. 参加人数の減少について

アンケートを活用しニーズに沿った講座を組み込むなど、参加人数の減少に気をつける。

【学識経験者の意見】

宇多津教育の独自性を発揮したすばらしい社会教育である。二つの学校の合流も、児童の成長に大きく役立つ。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(1) 地域の教育力を活用した学習等支援＝地域力
事業内容	③ 放課後児童の居場所の充実 ④ 子どもSOSの充実

令和元年度実施内容

1 放課後子ども教室（小学4年生～小学6年生）

●スポーツ活動

内容	場所	活動日(時間)	登録数	年間延べ
卓球①	北小学校体育館	毎週水曜日 (15:00～17:00)	13	291
バドミントン	北小学校体育館		18	361
卓球②	宇多津小学校第1体育館		16	426
ドッジボール	宇多津小学校プレイルーム	毎週水曜日 15:30～17:00 毎週土曜日 13:30～15:00	21	391 240

●学習

内容	場所	活動日(時間)	登録数	年間延べ
宇多津小学校区	宇多津小学校内	月・火・木・金曜日 (下校後～17:00)	6	257
北小学校区	北小学校内		20	1333

2 放課後児童育成クラブ（小学1年生～小学4年生）

内容	場所	年間開設日数 開設時間	登録数	年間延べ
宇多津放課後 第1スマイルクラブ	宇多津小学校空き教室	274日	33	4168
宇多津放課後 第2スマイルクラブ		<平日> 下校後～18:00 *延長保育19:00	32	4648
宇多津北放課後 第1キッズクラブ	キッズプラザうたづ（児童館）	<長期休業期間> 8:00～18:00 *延長保育19:00	44	4881
宇多津北放課後 第2キッズクラブ	民有地借り上げ施設		37	4569
宇多津北放課後 ジュニアクラブ	北小学校内		35	4597

3 こどもSOSについて

- ・看板設置数 107箇所（内宇小校区53箇所、北小校区54箇所）
- ・各小学校から児童へ、看板の意味と緊急時の対応を周知した。また、学校・PTAより、大まかな場所を示した地図を配布した。
- ・協力いただいている家庭・店舗へ、看板の更新と対応マニュアルの配布を行った。

目標達成に向けた今後の課題

- 1 放課後子ども教室
 - ・各活動を継続していくための人材・活動場所の確保
- 2 放課後児童育成クラブ
 - ・多様化するニーズに向けた対応
 - ・児童数に適した活動場所の確保・支援員数の配置
 - ・支援員資質向上に向けた研修会の実施・参加
- 3 看板設置協力増加を図るため、広報・HPにて周知を行う。

【学識経験者の意見】

- ・安全、安心な居場所が設定されており、スポーツと学習による実利と人間的成長が期待できる。
- ・子どもSOSの設置と看板の意味、緊急時の対応策の周知は適切である。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(2) 他者への思いやりや自尊感情の育成
事業内容	① 地域活動への積極的な参加促進

令和元年度実施内容

1. 具体的実践内容

(1) 宇多津幼稚園

- ・ 月に一度、全園児で園庭の草抜きや石拾いをして、美化への意識をを育てている。6月と12月の年2回、町内のクリーン作戦にも家族といっしょに参加することを呼びかけている。
- ・ 恒例の「茅の輪くぐり」には準備の段階から地域の方々が参加して親子と触れ合い、いろいろな話をして下さる中で地域の伝承行事にふれ、地域の方々の愛情を知ることができた。

(2) 宇多津小学校

- ・ 6年生を中心に、清掃等のボランティア活動を毎朝自主的に行い、その活動を全校に発信して啓発を図った。
- ・ 地域コーディネーターを核として緑化の推進や授業等のボランティアを募り、学校支援にご協力いただいた。

(3) 宇多津北小学校

- ・ 週1回の「ちょボラ活動」による「うたづっこボランティア銀行」へのハート貯金や赤い羽根共同募金等の活動への参加。
- ・ 全校児童による年間2回の学校周辺のクリーン作戦、及び町内のクリーン作戦への参加。
- ・ うたづっこふくしセミナーに参加し、ボランティアの取り組みを発表した。
- ・ 宇北っ子頑張りカードを作成し、取り組みを行うことで、自ら目標を設定し、主体的にボランティアに取り組む児童が増えた。

(4) 宇多津中学校

- ・ 年2回の町内一斉清掃に参加し、家族や地域の方々と触れ合いながら楽しく清掃している。
- ・ 夏休みには、全員の生徒が高齢者・障がい者・乳幼児施設など約40種類の中から希望する日、場所や内容のボランティア活動を選び、活動している。
- ・ うたづの町家とおひなさんなど町内の各種行事に中学生ボランティアとして参加した。
- ・ やりがいの感じられる生徒主体のボランティアを目指し、全校でエコキャップや紙パックの回収や赤い羽根募金等にも取り組み、ボランティア通帳や獲得ハートの管理も行っている。

2. ボランティア銀行に贈呈されたハート数と各団体への贈呈品

宇多津小 101,902ハート 宇多津北小学校 454,592ハート 宇多津中 177,250ハート

- ・ 熱中症を予防するため、ウォーターサーバーを設置した。
- ・ 子ども食堂で楽しく過ごすために卓球台等を購入した。
- ・ 町をきれいにする活動を行っている団体の活動資金を補助した。

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 核家族化が進む一方で町外からの転入者も多く、地域との関わりが希薄である。子どもが橋渡し役となって親子、家族で地域の中に溶け込んでいくような取組みが今後も各所で期待される。
- ・ ポイントやカードをもらえなくても変わらず活動を続けられるよう、本当のボランティアについて考え、自ら実践していける、豊かな心の育成に努める。

【学識経験者の意見】

- ・ 素晴らしい活動なので、こういうことを積極的に情報発信してほしい。
- ・ 地域との関わりを高めるボランティアは、現代の学校教育の必須の課題である。各校園が積極的にボランティア活動を推進している。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(2) 他者への思いやりや自尊感情の育成
事業内容	② 異年齢交流活動事業の推進

令和元年度実施内容

< 子ども会活動 >

1. 町補助金
年間495,000円
2. 加入者数
幼 児：30名（昨対比+2名）小学生：156名（同▲12名）中学生10名（同+4名）
育成者：155名（同▲8名）合 計：351名（同▲14名）
3. 単位子ども会数
8単会（昨年度より増減なし）
4. 町子連 異年齢交流活動実施事業

令和元年	6月16日（日）	ニューソフトバレーボール大会	…	95名	
令和元年	6月23日（日）	田植え体験教室	…	55名	
令和元年	7月20日（土）	水族館見学	…	20名	
令和元年	7月27日（土）28日（日）	デイ、一泊キャンプ	…	130名	
令和元年	9月 8日（日）	海上防災親子教室	…	40名	
令和元年	10月20日（日）	稲刈り体験教室	…	51名	
令和元年	10月26日（土）	太鼓台運行事業	…	46名	
令和元年	12月 8日（日）	秋のスポーツ大会	…	70名	
令和元年	12月15日（日）	しめかざり教室	…	15名	
令和元年	12月22日（日）	お楽しみ会	…	14名	
令和元年	12月26日（木）	もちつき大会	…	22名	
令和2年	2月 9日（日）	わくわくイベント「逃走中」	…	45名	計603名

目標達成に向けた今後の課題

< 組織について >

- ・ 子ども会会員数は減少傾向にある。要因として、少子高齢化、習い事に通う子どもの増加、共働き世代が増えたこと等が考えられる。子ども会行事を日曜日に開催することで、共働き世代の家庭も参加しやすい環境作りに努める。また、新規会員確保のため、各学校で子ども会活動をアピールできる機会を設けられないか、協議していく。
- ・ 前年度半減していたジュニアリーダーについて、当該年度については小学校卒業生を中心に確保し、増員することができた。異年齢交流において、重要な役割を持つジュニアリーダーが、積極的に参加できるような行事を計画しなければならない。

【学識経験者の意見】

- ・ 「参加してよかった」という思いを共有していくような仕組みを構築してほしい。
- ・ 勤労体験や地域行事への参加と体験は、異年齢交流により社会性を育てるうえで大切な教育です。
- ・ バランスのよい、意義のある行事が組まれています。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(3) 家庭教育活動の推進並びに支援体制づくり
事業内容	①家庭教育支援体制づくり並びに学習機会の拡充 ②家庭教育力の向上

令和元年度実施内容

- 学習機会の効果的な提供 就学時健康診断や保護者会、参観日など、多くの保護者が集まる機会を活用した学習機会を作る。
 - 宇多津幼稚園
 - ・6/18 「お家の人学ぶキッズマナー」 参加者：56名
講師：内海加奈子 先生
 - ・9/15 「メンズプレイデー」親子ふれあい運動遊び 参加者：140名
講師：澤 宜英先生
 - ・2/4「南海トラフ地震等について災害を理解し命を守ろう！」参加者：62名
講師：車谷 豊文 先生
 - ・2/13 「命の出前講座」 参加者：61名
講師：ぼっこ助産院 田中幸子先生、鈴木佳奈子先生
 - 宇多津北小学校 11/7 「令和2年度入学周知会、家庭教育学級」 参加者：120名
講師：香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課 伊藤 元一 先生
 - 宇多津中学校 11/29 宇多津中学校（入学周知会：小学校6年生児童と保護者等対象）
講師：さめきっ子安全安心ネット指導員
（県教育委員会教育長から委嘱された指導員）（参加人数340人）
- 広報誌による「家庭教育啓発月間」
 - ・7月号に家庭教育啓発月間（7月1日～8月31日）の記事を掲載した。
 - ・1月号の「家庭教育コラム」にて規則正しい生活を促す記事を掲載した。

目標達成に向けた今後の課題

- ・社会全体で人間関係が希薄になる中、親子の育ちを支える機会が少なくなっている。
- ・園児や小・中学生の親子を対象に学習の機会を通じて、「家庭教育支援」を積極的に進める。
- ・就学時健康診断や保護者会、参観日など多くの親が集まる機会を活用し家庭教育学級を開催する。
- ・地域社会で人間関係が希薄になっている中、親子の育ちを支える機会が少なくなっているため、学習の機会を通じて家庭の教育力の向上を図っていく。

【学識経験者の意見】

- ・学校と家庭との連携、学校の家庭教育支援について、各校園とも意義のある行事が設定されています。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(3) 家庭教育活動の推進並びに支援体制づくり
事業内容	③「家庭の日」の推進

令和元年度実施内容

《「家庭の日」(毎月第三日曜日)の推進》

1. 「家庭の日」作品募集・作品展 (233点)

・ 11月26日～12月3日 会場：うたづ海ホテル

宇多津小学校児童作品10点展示。

宇多津北小学校児童作品12点展示。

宇多津中学校生徒作品2点展示。

2. 「家庭の日」に合わせて情報メール発信。

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 家庭の日を設け、町全体の取組として家庭での食事や家庭学習の充実など、現在の課題とされている部分について考えるきっかけにしていく。

【学識経験者の意見】

- ・ すっかり形骸化している「家庭の日」の復活に向けて、改めて呼びかけた意義は大きい。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(4) 人権尊重の意識を養う人権・同和教育の推進
事業内容	① 研修機会の充実

令和元年度実施内容

- ・5月 香川県人権・同和教育研究協議会の開催する研修会、研究大会に参加
坂出綾歌企業人権・同和教育推進協議会の開催する研修会に参加
- ・7月 第66回四国地区人権教育研究大会に参加（徳島市）（各校1名：5名）
- ・8月 「同和問題啓発強調月間」に宇多津町人権・同和教育推進協議会総会及び研修会
DVD視聴「誰もがその人らしくーLGBTー」研修を実施した。 40名
- ・11月 第71回全国人権・同和教育研究大会に参加（津市）（各校1名：5名）

目標達成に向けた今後の課題

1. 啓発対象者について

現在行っている研修会の参加者は、教育委員、人権擁護委員を中心とした各種委員の他、企業からの参加者が主なものとなっているので、今後は対象者をもう少し広くした研修会を実施していく。

2. 研修の題材について

宇多津町人権・同和教育推進協議会総会研修会

今後とも内容を精査して研修会などを開催していきたい。

【学識経験者の意見】

- ・組織内の差別や偏見をなくすためには、担当者や指導者の研修が欠かせません。その研修が適切に行われていますが、今後は参加者数を増やす必要があります。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(4) 人権尊重の意識を養う人権・同和教育の推進
事業内容	② 広報・啓発活動の充実

令和元年度実施内容

○ 人権作品展の開催

1. 内容

宇多津町立の保育所・幼稚園・小学校・中学校においては人権尊重の教育を推進しており、その学習成果の一端を展示し、人権尊重への認識を深めると共に、住民への人権尊重の啓発を行った。

2. 出品者

宇多津町立保育所・幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒

3. 出品物

ポスター、標語、習字、作文、詩、その他軸に貼れるもの

4. 人権展

●人権作品展・・・期間：9月13日（金）～10月4日（金）

会場：ユープラザうたづ エントランスホール

広報・周知：広報9月号において、開催に関する記事を掲載。

●「私の考えを語る会」人権展・・・各園・学校より2作品ずつ展示 日時：11月13日（水）

会場：坂出市立東部小学校体育館

○ 『人権・同和教育だより』の作成

1. 内容

世界人権宣言が採択された12月10日を「人権デー」とし、毎年12月10日を最終日とする1週間（12月4日～12月10日）を「人権週間」と定めている。

この人権週間にあわせて、坂出市、綾川町、宇多津町では、地域で人権尊重の認識を深めるためにパンフレットを作成した。

○今回の記事の担当 部落差別について・・・坂出市

障がい者とスポーツについて・・・綾川町

ユニバーサルデザインについて・・・宇多津町

○『坂出市人権展』出品の町立幼稚園、小学校、中学校の園児・児童・生徒のポスターや習字の作品を掲載

2. 作成物

「人権・同和教育だより」を8,600部作成し、12月広報にあわせて町内全戸に配布した。

○ その他の広報・啓発状況

・町広報誌に人権・同和教育の啓発記事を掲載（住民生活課）

・町職員及び人権・同和推進委員研修会開催（住民生活課）

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 人権展にあわせて、学校等の人権・同和教育についての取組みを紹介し、より一層人権尊重の啓発を行いたい。
- ・ 「人権・同和教育だより」は、なるべくタイムリーな内容の記事を掲載。内容は子どもにも理解ができ、家族で話し合えるような内容にしたい。

【学識経験者の意見】

- ・ 園児・児童・生徒の作品を通しての啓発は効果的である。
- ・ 広報誌による全町民への啓発が適切に行われている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(5) 宇多津を誇りに思う心を育成する教育の推進
事業内容	① 地域の伝統文化を学習する機会の充実 ～成人式～

令和元年度実施内容

1. 日 時：令和2年1月12日（日） 13：30～14：00
2. 開催場所：ユープラザうたづ
3. 対象者：平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれの男性119名、女性106名
4. 参加人数：男性83名（昨対比▲5名）、女性49名（▲31名） 計132名
5. 内 容：町長式辞、来賓祝辞、成人代表誓いのことば、恩師の先生方からメッセージ動画
6. 費 用：557,945円（記念品代190,080円、記念写真代158,400円、会場借上料105,480円等）
7. 実行委員会：8月14日をはじめに、計4回行った。
 - 担当者役割分担
 - ・司会（式典等の司会）
 - ・誓いのことば（謝辞）
 - ・受付（資料の封入、受付・配布、来賓へ花をつける）
 - ・広報原稿（2月号広報の原稿）
 - ・アトラクション（準備・片付け・操作）
 - ・パンフレット（表紙のデザイン）
 - アトラクション内容
 - ・恩師ビデオメッセージ
 - 記念品内容
 - ・モバイルバッテリー

目標達成に向けた今後の課題

1. 参加率について

本年度の参加率は59%（昨対比▲12%）と減少したが、概ね過去の平均程度の出席率であった。3連休（土～月）の日曜日午後から式典を行うことは、新成人にとっては都合が良いとのことであったため、今後も継続していきたい。新成人による実行委員会についても友人への呼びかけが可能という点から高い出席率が期待できるため、継続していきたい。

今後についても、成人者の代表者とともに成人者の意見を聞きながら進めて多くの成人が式に参加できるよう努めたい。
2. アトラクションの選定

恩師からのメッセージ動画は、新成人が担当した。新成人が、自ら各恩師のもとへ足を運び撮影協力を依頼することで先生方も快く出演してくださった。努力の末、当日は動画に恩師が映る度に、歓声が沸いた。今後も、新成人の要望に沿った内容を実現できるようサポートしていきたい。
3. 運営

成人式を新成人にとって自立するための一つの節目とし、町の出身者として郷土愛を育むため、より自主的な運営を図りたい。

【学識経験者の意見】

- ・実行委員会による自主的な式典内容の編成、厳粛な進行、参加率などから概ね成功と考えられます。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(5) 宇多津を誇りに思う心を育成する教育の推進
事業内容	① 地域の伝統文化を学習する機会の充実 ～宇多津検定～

令和元年度実施内容

1. 日時 令和2年12月24日(火)
2. 場所 宇多津中学校各教室
3. 対象者 宇多津中学校1, 2年生 306名(1年生158名、2年生148名 前年対比2名減)
4. 合格者 49名(1級:4名、2級:13名、3級:32名) 合格率16.0% 前回合格者49名
平均点54.3点(1年生:51.3点、2年生:57.5点) 前回54.2点
5. 出題範囲 町の成り立ち、古街関連
産業
観光関連、おひなさん
町の歴史、祭り関連、文化財
宇多津町出身者
6. 結果 試験範囲:検定本全体とすべき4.4% 広くすべき3.7% ちょうどよい57%、
もっと狭くするべき34.9%
問題数:多い28.1% ちょうどよい66.1% 少ない5.8%
難易度:難しい47.1% 普通49.2% 易しい3.7%

目標達成に向けた今後の課題

- 1 実施の時期
本来の目的においては全生徒の受験が望ましいが、3年生は高校入試の直前となるため、受験対象外としている。
- 2 出題範囲について
予習帳を活用することで、特定の分野において知識を得ることができている。
検定本全体では範囲が広いため、出題範囲を限定して周知している。準備には朝読書の時間を1週間程度使用し、熱心に勉強する子は本を持ち帰り、家庭でも学習している。
- 3 目的の再確認と情報の更新
地元の歴史・文化を知ると、郷土をより愛することができる。他市町がご当地検定を取りやめていく中、現在の検定本の見直しや、対象者を小学生まで拡大すること(小学校用検定本の作成も含めて)の検討、インターネットでの検定実施を導入することなど、本町においても総合的な面から検討していく必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・郷土を愛し、誇りに思う気持ちを育てるには、自分の住む地域の歴史、文化、産業などをしっかりと把握することが大切。独自性が素晴らしい郷土教育である。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) いじめ等問題行動から子どもを守るネットワークの充実
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～いじめ防止等対策委員会～

令和元年度実施内容

宇多津町いじめ防止条例に基づき、いじめ防止対策等委員会を開催

ポスターの作成：令和元年度宇多津北小学校の児童の作品をいじめ防止のポスターとして採用

標語は、「みんな笑顔で いじめゼロ」前回と同じ

1. 宇多津町いじめ防止等対策委員会の開催 令和元年10月18日

(1) 委員の構成 委員4名

(2) 内容

- ①小中学校のいじめ防止の取り組みと現状について
- ②各委員から

2. 令和元年度いじめの発生状況

- 宇多津小学校 1件 … 5年1件
- 宇多津北小学校 5件 … 4年4件、5年1件
- 宇多津中学校 23件 … 1年8件、2年5件、3年10件

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 普段の学校生活や生活アンケートなどで、いじめの兆候となるものを見逃さず、早期発見、早期解決を図る。また、アンケートのとり方についても、子どもが正直に書きやすいように常に見直しを行う。
- ・ 普段から相談しやすい（話しかけやすい）体制をつくる。
- ・ 対応がなかなか困難な子どもについては、SCやSSWに専門的な立場で支援をお願いする。

【学識経験者の意見】

- ・ 各校園がいじめ防止の取組状況を披れきし、それを参考にして効果的な取り組み方に改善していくことが大切である。
- ・ いじめの解消を目指し、対症療法にならず人間育成の観点の上に乗って学校経営・学級経営を見直し、改善して欲しい。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) いじめ等問題行動から子どもを守るネットワークの充実
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～サポートチーム連携協議会～

令和元年度実施内容

1. 宇多津町サポートチーム連絡協議会について

宇多津町立学校に通学する児童又は生徒の問題行動が発生した場合、学校、教育委員会及びその他関係機関が協力し、解決に向けた具体的な支援策の検討及び実施の適切な対応を図るためにネットワークシステム(連携協議会)を構成する。

2. 令和元年度「宇多津町サポートチーム連携協議会」の開催

(1)日時: 令和元年7月4日(木) 15:30～

(2)場所: 宇多津中学校体育館ミーティングルーム

(3)参加構成機関: 坂出警察署生活安全課、宇多津交番、町少年育成センター、主任児童委員
町保健福祉課相談支援センター、各小・中学校、スクールソーシャルワーカー
町PTA連絡協議会、町サポート指導員、町教育委員会事務局 参加人数 20人

(4)内容(情報交換及び成果と課題)

- ・学校……小学校: 生徒指導状況、生徒指導上の課題(長欠児童、虐待・ネグレクト、いじめ)
中学校: 生徒指導状況報告(全体として、問題行動、不登校の状況、交通事故の状況)
- ・坂出警察署(宇多津交番)……坂出署管内の非行少年検挙補導状況
(刑法犯少年、窃盗犯少年、万引き少年、不良行為少年)
- ・少年育成センター……宇多津町少年育成センター活動年間集計
(街頭補導状況、相談状況、環境浄化活動、不審者情報)
- ・主任児童委員……かかわっている町内の子どもについて
- ・町PTA連絡協議会……最近の子どもの現状

目標達成に向けた今後の課題

- 小学校……学校全体としては大きなトラブルや保護者からのクレームはほとんどない。
協力が得にくい保護者に対しては、関連機関と連携し地道にかかわっていききたい。
- 中学校……学校全体としては大きなトラブルや保護者からのクレームはほとんどない。
最近の傾向として、携帯電話を介したSNSのトラブルが数件発生している。携帯の所持や使用のルールを明確に決め、トラブルを未然に防ぎたい。保護者にも協力をお願いする。
- 全体……日頃から関係機関と情報交換を行い、連携して問題に対応する体制の構築。トラブルを未然に防ぎ、問題が人きくなる前に解決していききたい。

【学識経験者の意見】

- ・問題行動の内容と解決策について各校と関係機関との間の情報交換と連携が図られている。
- ・各校が具体的な行動計画を立て、実践していくことが大切。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) いじめ等問題行動から子どもを守るネットワークの充実
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～ 宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会 ～

令和元年度実施内容

宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会

1. 児童部会

(1) 児童相談種別件数 (R元) (H30 180件)

養護		障害	非行	育成		その他		計
児童虐待	その他	発達障害	ぐ犯触法	性格行動	不登校	特定妊婦	その他	
72	50	2	7	9	10	17	39	206

(2) 虐待への対応 72件 (H30 77件)

(3) 要保護児童対策協議会

① 実務者会：月1回定例開催し、要保護児童、特定妊婦、DVなどの個別事例について、関係機関多職種が参加して支援状況などについて情報交換し、課題の共有や役割分担等を行った。

② 進行管理会：年2回、上期と下期に分けて、実務者会で検討している事例について、主担当機関で援助方針の確認や見直しを行った。

③ 個別ケース検討会 R元 15回 (H30) 22回

児童虐待など要保護児童及び家庭への支援過程において、情報の共有、課題の整理、支援の環境の変化や問題発生など協議が必要と判断された場合、支援している関係機関に集まってもらい個別ケース検討会を開催し、情報の共有、課題の整理、支援の方向性を検討した。

【主たる相談種別】 身体的虐待 心理的虐待 ネグレクト 不登校その他の養護相談

(4) その他の取り組み

① 宇多津町教育連携協議会 夏季研修会 R元 8.5開催 118名

講演：「加害のある子どもたちへの接し方」

講師：講師 四国少年院 法務教官 長尾 貴志 氏

② 児童虐待防止の普及啓発

・虐待防止キャンペーンポスター町内施設、学校等に配布

・11月 児童虐待防止推進月間における啓発

2. 講演会「児童虐待に関する香川県の現状」 R元 5.23開催 44名

講師：香川県健康福祉部子ども政策推進局子ども家庭課 課長補佐 山下 晶子 氏

【関係機関】 西部子ども相談センター、中讃保健福祉事務所、教育委員会(学校・幼稚園・保育所) 医療機関、障害者、談支援事務所、民生委員、町健康増進課、町保健福祉課

目標達成に向けた今後の課題

1. 本業務について

保健福祉課の相談支援センターが中心となって、各機関・団体の連携によって、各家庭への支援の仕方やその子どもへの対応について検討するもので、教育委員会独自の事業ではないが、連携して情報交換、家庭訪問等を行い、学校からケース会の要望があれば、開催の有無を協議し、開催する場合は教育委員会も参加して情報を共有する。

2. 今後の課題（保健福祉課から）

・子どもの面前での夫婦喧嘩やDVによる心理的虐待が増えている。妊娠期からの継続支援、子育て支援サービスの充実が必要である。

・町において、現実的に利用できるサービスが少ない。

【学識経験者の意見】

・複雑な組織のため、相互の連絡関係がうまく作動するのか、多様な相談内容にもれなく適切に対応できるのか懸念される。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) いじめ等問題行動から子どもを守るネットワークの充実
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～ 少年育成センター業務 ～

令和元年度実施内容

1 巡回指導活動 育成指導員…60名 補導回数/年間…167回 延べ従事数/年間…573人

行為名	就学前		小学生		中学生		高校生		大学生		一般		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
道交法違反	0	0	0	0	10	2	2	2	0	0	0	0	12	4
校則違反					1	2							1	2
たむろ					5	0							5	0
ゲームコーナー声かけ	2	3	35	7	11	0	2	0	0	0	0	0	50	10
帰宅促し	1	6	33	10	1	11	3	0	0	0	0	0	38	27
下校等声かけ			489	435	159	154	0	0	0	0	0	0	648	589
そ（危険行為）			8	1	5	0	5				2		20	1
の（ ）													0	0
他（ ）													0	0
合計	3	9	565	453	192	169	12	2	0	0	2	0	774	633

2 相談活動

月	相談者（対象者）	内容	月	相談者（対象者）	内容
4	学校関係者（中3男子）	不登校	11	学校関係者（小六女子）	不登校
6	学校関係者（中2女子）	支援センター通級について	12	母親（小一男子）	不登校
6	学校関係者（中2女子）	ケース会	12	母親（小一男子）	不登校
6	学校関係者（中2女子）	支援センター見学	12	母親（小一男子）	不登校
7	本人、母親（中2女子）	支援センター体験	1	母親（小一男子）	不登校
7	本人、学校関係者（中2女子）	2学期から支援センターに通所	1	母親（小六女子）	不登校
8	関係機関	児童クラブの児童の様子を観察	1	関係機関（小三男子）	不登校
8	関係機関	児童クラブの児童の様子を観察	1	本人（高一男子）	進路
9	本人、母親（中1男子）	不登校	1	母親（小六女子）	不登校
9	本人、母親（中3男子）	進路	2	母親（小三男子）	担任との関係
9	学校関係者、関係機関（中1男子）	ケース会	2	本人、母親（中二女子）	友だち関係
9	学校関係者（小6男子）	不登校	3	本人、母親（中二女子）	不登校
10	本人、母親（小1男子）	担任の不信感			
10	本人、母親（小6女子）	支援センター通級について			
10	母親（中3男子）	不登校			
11	母親（小1男子）	不登校			

相談活動は、主に不登校が多い。その原因や背景は様々で、友達とのコミュニケーション不足や生活習慣の乱れから、昼夜逆転の生活を送っている子どももいる。相談内容によっては、各関係機関と連携をとり、よりよい解決方法に向けて対応している。

3 環境浄化活動 白ポスト回収数（年間） [本（267）ビデオ（70）DVD（236）合計（573）]

4 広報・啓発活動 青少年健全育成活動における地域・関係機関との連携

5 教育支援センター活動 学校復帰へ向けた支援

4名の不登校の児童・生徒が通所し全員、進学や復学することができた。学校や集団生活に復帰できるよう個別に学習したり様々な体験活動を実施し、子どもたちの自立につながるように支援している。

目標達成に向けた今後の課題

- ・地域全体で子どもたちを見守る意識の高揚を図ること
- ・関係機関との連携により青少年問題行動の早期発見に努めること

【学識経験者の意見】

- ・積極的な活動に感謝したい。
- ・補導、相談業務、環境浄化、啓発の業務が存分に発揮され、効果的な取組みがなされている。
- ・積極的な声掛けが問題行動の未然防止に役立っている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(1) 文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の推進
事業内容	① 研修活動等の充実並びに地域の伝統文化の保存・継承活動の支援 ～ 令和相聞歌 ～

令和元年度実施内容

1. 事業内容

- 四国医療専門学校との連携事業「令和相聞歌実行委員会」を立ち上げ事業を実施。
- 携帯電話やパソコンのメールで「令和相聞歌」を募集。募集期間は9/1～11/11
- 募集チラシは、町内公共施設、学校、県内外報道機関、県内市町教育委員会、県関連機関 県外高校文芸部等に配布。
- 選考：（1次選考）期間内の応募作品の中から選考委員により68作品程度が選ばれる。
（2次選考）一般の方のインターネットによる人気投票の結果を考慮し、選考委員により、最終選考を行った。
最優秀作品1点、優秀作品3点、特別賞10点、四国新聞社賞・四国医療専門学校賞各5点
- 授賞式（2/23 ホテルアネシス瀬戸大橋）
- 交流会 授賞式後開催
- 除幕式 交流会後受賞作品を刻んだ石碑の除幕（第11回～最優秀賞1基）

2. 事業実績

応募数： 令和元年度（第1回）1,808 （令和相聞歌：応募は一人3作品まで）
平成29年度（第11回）7,926 平成30年度（第12回）7,952

3. 補助金

190万円/年

目標達成に向けた今後の課題

- ・実行委員会を早めに開催し、イベント内容等を検討する。
 - ・記念イベントの一つとして、実施した子ども俳句大会を継続する。
 - ・宇多津町民にもっと事業内容を知ってもらい、町民からの応募作品を増やすための工夫する。
- 歌碑の設置について
- ・第11回からは最優秀賞（1基）のみ歌碑を設置する。

【学識経験者の意見】

- ・宇多津町から全国に発信しているユニークな文化事業として宇多津町の知名度を高めている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティーの育成
施策項目	(1) 文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の推進
事業内容	① 研修活動等の充実並びに地域の伝統文化の保存・継承活動の支援 ～文化財保護～

令和元年度実施内容

1. 文化財保護委員会事業

(1) 保護委員会の開催について

令和元年6月25日(火)

令和2年2月19日(水)

(2) 報告事項・委員研修など

・文化財保護委員の委嘱について

・宇多津町内の文化財について

2. 文化財保護協会事業

(1) 会員数について

県・町会員 34名 町会員6名 計40名

(2) 補助金について

年間135,000円 細川頼之研究事業補助金 270,000円

(3) 実施事業について

総会研修会として宇多津町文化財保護協会研修委員による「UTAZUの歴史あれこれ」

～宇多津の大元がわかれば宇多津の今がわかる～と題して講演いただく。

目標達成に向けた今後の課題

1. 文化財保護委員会事業について

新規に、文化財保護委員に文化財専門員である県職員の方などに参画していただいたことで、意見等をいただき、会の運営に生かしていく。

新規に申請がなかったため、指定文化財の審議には至らなかった。

2. 文化財保護協会事業について

文化財保護協会会員が研修を重ね、宇多津の歴史を会員や一般の聴講者にもわかりやすく説明する。自らが研究し、積極的な活動が見られるものの、会員数は減少傾向にあるため、役員・会員からの声掛けが必要。

【学識経験者の意見】

・文化財保護協会事業について、研修・研究が適切に行われている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実
事業内容	① いつでも・どこでも学ぶことができる学習機会の提供 ～女性セミナー～

令和元年度実施内容

男女共同参画社会に対応した社会作りを目指し、女性の視点から講座を開設・実施する。

1. 年間活動及び参加者数

(1) 郷土料理教室（緒の押し寿司）（5/23）	参加者 23名
(2) 体操教室（7/4）	参加者 20名
(3) 和菓子作り体験教室（9/18）	参加者 19名
(4) 県外研修（岡山県方面）（11/12）	参加者 30名
(5) 食物に関する講座（1/20）	参加者 16名
(6) 讃岐国府跡を巡る旅～作法をそえて～（2/14）	参加者 25名
(7) 清掃活動	中止

2. 会員人数

75名（H30 72名）

3. 延べ参加人数

133名（H30 165名）

目標達成に向けた今後の課題

1. 企画について

講座参加者の声をもとに、次年度の講座を企画している。このことから参加者のニーズに即した事業を実施できているものとする。今後も同様の方法で計画していく方針である。

2. 会員数・参加者数について

一講座当たりの参加者数は増減するものの、会員数は昨年度より減少している。年度末には新型コロナウイルス感染拡大により1講座中止することになった。今後は感染対策をしながら、出来る講座を検討しながら会員数・参加者数の増加を図る。

【学識経験者の意見】

- ・実施に際しては予防対策を大切にほしい。
- ・女性のニーズを生かした女性の視点からの講座、行事が適切に実施され、参加数も妥当。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティーの育成
施策項目	(2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実
事業内容	① いつでも・どこでも学ぶことができる学習機会の提供 ～宇多津大学～

令和元年度実施内容

高齢者が健康で明るく生きがいのある生活が送れるよう、社会参加及び学習の機会を提供する。

1. 年間活動及び参加者数

(1) かかりつけ薬剤師・薬局をもちましよう～薬と正しくつき合うには～ (6/5)	参加者 62名
(2) 身の回りの対策あれこれ (7/3) ～特殊詐欺・交通事故などの被害防止のために～	参加者 70名
(3) 生きがいのある生活について (9/18) ～お金と上手につき合うために～	参加者 53名
(4) 生活習慣病予防の運動教室 (10/17)	参加者 65名
(5) 町外研修 (11/21)	参加者 47名
(6) コーラス (2/26)	参加者 59名

2. 会員数

119名 (前年118名)

3. 行事参加者数

延べ356名	H29年度	390名
	H30年度	356名

目標達成に向けた今後の課題

1. 講座の企画について

香川県消費生活センターが行う「くらしのセミナー」を中心に計画している。講座一覧より、参加者に希望を伺うことで、関心の高いテーマで事業の実施ができているものとする。今後も老人会と連携し、事業の展開を図る。

2. 会員数・参加者数について

会員数・参加者数ともに減少傾向にある。会員数・参加者数を増加させるべく、企画内容を見直すことで増加を図る。

【学識経験者の意見】

- ・テーマ設定が非常に良い。
- ・学習事項がよく吟味・精選され、高齢者に役立つものになっている。
- ・受け入れ限度枠いっぱいの参加数の講座もあり、盛況である。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実
事業内容	② 住民が学んだ成果を住民のために活かす仕組みづくり 「知の循環」

令和元年度実施内容

1. 生涯学習講座

①講座内容、実施日数・時間、受講者数

- 元気に楽しく運動習慣 3日(2h/日) 11名 ○スロートレーニングで若々しく 6日(1.5h/日) 16名
 - 五・七・五の楽しみ俳句入門 4日(2h/日) 6名
 - 夏休み中学生以下はじめての俳句づくり 2日(2h/日) 3名
 - 夏休み小学生以下 初級将棋教室 5日(2h/日) 5名
 - 初めてのハワイアンダンス 7日(1h/日) 16名
 - 魚のさばき方や栄養等を学ぼう 6日(2.5h/日) 17名
 - ニューススポーツを体験しよう 2日(2h/日)40名
- 合計8講座 受講者数合計114名

②募集方法、期間

方法:4月広報へ講座要項及び申込用紙を挟み込み。事務局窓口にて申込受付。
期間:4月3日～4月21日 3週間

2. 香川短期大学との連携事業 カルチャー講座の開催。(カルチャー講座委託料 232,880円/年)

①講座内容、実施日数・時間、受講者延べ人数

合計16講座 延べ受講者数合計373名

- 歴史的建造物から見る文化と宇多津 1日(2h/日)17名
 - 異文化交流のつどい～かり短期大学留学生と一緒に 1日(2h/日)22名
 - 夏休み宿題 おたすけ講座(書写)1日(2.5h/日)13名
 - 夏休み宿題 おたすけ講座(ポスター)2日(3h/日) 31名
 - 夏休み宿題 おたすけ講座(読書感想文)1日(2.5h/日)8名
 - パソコンを使ってスマホデータの整理術 2日(1.5h/日)10名
 - 男女共同参画で活力ある未来を拓く1日(1.5h/日)28名
 - パソコン教室 便利なwordの使い方講座 3日(1.5h/日)20名
 - シニアと音楽好きのための日本の歌を楽しもう 2日(1.5h/日)27名
 - みんなでバトミントン 2日(2h/日)28名 ○プログラミングに挑戦!ロックリーゲームを体験しよう! 1日(2h/日)1名
 - 英会話で楽しくティータイム 3日(1.5h/日)39名 ○知って得する介護のこと 3日(1.5h/日)11名
 - 親子で楽しいクッキング 1日(3h/日)54名 ○楽しくイタリアン 1日(3h/日)42名
 - 万里無片雲 壺中日月長一中国茶文化への招待一 1日(2h/日)22名
- * 開講自粛 ○将棋の指し方を知ろう ○Let's スポーツ ○卒業式には生花でコサージュを
○現代の「まちづくり」と図書館オープンでパブリックな場を作る各地の取り組み

②募集方法 5月より香川短期大学のHPに記載、町広報紙にて案内する。

目標達成に向けた今後の課題

○講座数・内容・回数の検討

受講生を対象としたアンケート調査等を参考に、公民館運営審議会等において、ニーズに合った講座内容の検討を十分に行う。

○受講後の支援

講座終了後は受講生が学んだことを活用できる自発的なサークル活動の結成支援を行う。
活動によっては、文化展などで出展、生涯にわたって学べる、生きがいづくりに繋げる。

○大学との連携事業

大学の持つ得意分野を生かした講座の開催を促し、大学との連携事業を通じて地域力の向上に努める。

【学識経験者の意見】

- ・大きなテーマ「知」への参加状況が素晴らしい。
- ・多彩な講座が生まれ、町民のニーズに十分に答えられる充実した生涯学習になっている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	① 指導者養成並びに活動支援体制づくり ～大松杯バレーボール大会～

令和元年度実施内容

1. 開催目的
第48回国民体育大会を機に、宇多津町名誉町民である故大松博文氏のバレーボール競技における偉業を讃えるとともに、バレーボール協議の振興・発展、また、町民と他県の方々との交流を図ることを目的とする。
2. 開催日時・会場
歓迎セレモニー：台風のため、中止
開催式：令和元年10月13日（日）8：00～ 宇多津中学校体育館
試合：令和元年10月13日（日）8：30～ 宇多津中学校体育館
3. 参加チーム
全10チーム（中四国9県のママさんバレーボール連盟から推薦されたチーム及び地元チーム）
4. 大会運営協力者
計186人
・ 県ママさんバレーボール連盟審判委員16名
・ 町スポーツ協会部員91名
・ 婦人会20名、商工会女性部17名
・ 宇多津中学校教諭4名、生徒19名
・ 坂出商業高校女子バレーボール部顧問1名、部員18名
5. 大会運営費
町補助金：2,700,000円
（公財）OHKスポーツ振興財団香川：170,000円
6. 前回からの変更点
全国大会で取り入れられている相互審判制度の導入により、競技役員の負担を軽減できた。

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 運営内容の検討
競技役員の高齢化により運営が困難になっている点が見られる。他大会の事例を確認し、競技役員の負担軽減につながるものがあれば検討する。
- ・ 競技役員の確保
現在の競技役員からの紹介を中心に、新たな競技役員の確保に努める。
- ・ 観戦者の増加
多くの住民に観戦してもらうための周知方法を検討する。

【学識経験者の意見】

- ・ セレモニー中止は残念でしたが、試合ができて何よりです。
- ・ 大松氏の偉業をたたえる行事が四半世紀余にわたって維持、継続され伝統行事となっている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	① 指導者養成並びに活動支援体制づくり ～激励制度～

令和元年度実施内容

1. 趣 旨 : 宇多津町におけるスポーツ及び文化芸能の振興を図るため、大会に参加する個人または団体に激励金を交付する。
2. 要項改正 : 従来は奨励金としてスポーツ部門にのみ交付していたが、生涯学習課においては文化・芸能部門での活動も、生涯学習や社会教育の一環として住民に対し奨励していることから、文化・芸能部門の該当者にも同等な支援をするようにした。その際奨励金を激励金に改め、さらに個人及び団体への激励金年間限度額を明確にした。平成24年度4月より実施、平成27年度には、旅費の補助として交付しているという考え方により、義務教育課程への加算は取り消した。
3. 交付人数 : 【以下実績】

平成24年度実績:スポーツ部門	95名	文化芸術部門	0名	総額	634,000円
平成25年度実績:スポーツ部門	165名	文化芸術部門	4名	総額	1,007,000円
平成26年度実績:スポーツ部門	218名	文化芸術部門	0名	総額	1,278,000円
平成27年度実績:スポーツ部門	142名	文化芸術部門	0名	総額	550,000円
平成28年度実績:スポーツ部門	201名	文化芸術部門	0名	総額	769,000円
平成29年度実績:スポーツ部門	109名	文化芸術部門	3名	総額	676,000円
平成30年度実績:スポーツ部門	97名	文化芸術部門	4名	総額	725,000円
令和元年度実績:スポーツ部門	111名	文化芸術部門	14名	総額	726,000円
4. 交付件数 : 【以下実績】

平成24年33件	平成25年42件	平成26年43件	平成27年37件
平成28年50件	平成29年51件	平成30年51件	令和元年79件

目標達成に向けた今後の課題

○周知方法

大会に出場する児童、生徒の保護者には学校から制度を周知。町HP・広報誌へ記載。

○祝い垂れ幕の件数について

全国大会に出場する個人・団体には祝い垂れ幕を作成しているが、作成件数が多くなる場合は、補正予算等の予算対策を講じなければならない。

【学識経験者の意見】

- ・スポーツ、芸術の振興策としての激励金制度は、スポーツや芸術活動の底上げにとどまらず、人間性や社会性を育てるうえで役立っている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	② スポーツ・レクリエーション活動を気軽に楽しむ場の充実 ～スポーツの推進～

令和元年度実施内容

町民の健康増進、体力向上を目的に、スポーツ・レクリエーション事業を企画し開催する。開催後も、教室等で学んだ運動を自主的に継続して行うことができるようになることが目標。事業については、町スポーツ推進委員（男性10名・女性5名）が中心となって指導する。昨年度で、推進委員3名が任期満了で退任。新委員3名（20代1名、30代2名）委嘱。

○指導・協力事業について

町：○健康ウォーク 5/12（日） 高知県 南喜々峰森林公園 参加者27名

○「ニュースポーツを体験しよう」&町民体カテスト 9/8（土）、22（土）

・9/14 スポーツ鬼ごっこ（町民体育館）

参加者25名 講師によるルール説明・実技指導・試合

・9/28 ペタンク（町民体育館）

参加者20名 講師によるルール説明・実技指導・試合

町民体カテスト 参加者10名 スポーツ推進委員7名が指導

参加者25名 スポーツ推進委員3名が指導

県：○スポーツ推進委員研修会 6/9（日）

障がいスポーツ等の実技指導（カローリング）についての講習。

新任者3名は初任者講習を受講し、スポーツ推進委員の理念について学習。

四国：○四国スポーツ推進委員研修会 1/18（土）・1/19（日）

他県市町との情報交換、スポーツ指導についての研修。

目標達成に向けた今後の課題

- ・推進委員の世代交代に向け、今年度より30歳前後の委員3名を委嘱。
- ・組織内での役職交代等により、若い世代のリーダーシップ力向上を図っていきたい。
- ・ニュースポーツ体験について、この取組を契機に、サークルや団体結成に繋げ、生涯スポーツの普及に努める。

【学識経験者の意見】

- ・スポーツを通しての宇多津町の活性化、元気な町づくりに役立っている。

令和元年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティーの育成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	② スポーツ・レクリエーション活動を気軽に楽しむ場の充実 ～ 子どもロードレース ～

令和元年度実施内容

平成27年度から開催日を1月の第二土曜日に変更。申込方法も事前申込のみとした。
今回の参加申込みは139名（昨年度180名）内、宇多津町の児童67人の申し込みであった。

《 第68回宇多津子どもロードレース大会 》

日 時 令和2年1月25日（土）午前8時～

会 場 宇多津小学校グラウンド

参加人数 男 84人 女 55人 合計 139人

運営協力者 スポーツ推進委員5人、体協スポーツ団体部員7人、
役場職員9人、青年会3人、その他2人

運 営 費 町補助金 324,500円

目標達成に向けた今後の課題

○運営内容の検討

- ・ 体協陸上部への協力体制を充実していく。
- ・ 多くの児童に参加してもらうための工夫を検討していく。

【学識経験者の意見】

- ・ 名ランナーを輩出した宇多津町の伝統を生かした行事である。町内の児童参加がほぼ半数であることは成功といえる。

